○あらめ、かぢめノ和名ニ就テ 岡村

ルベシ予ハ氏ノ斯學ニ熱心ナルニハ常ニ敬服スル處ニシテ又氏ノ同學ノ士ニ忠實ナルヲ悦ブモノナリ故ニ些カ此處ニ予ノ試驗シタル顛末ヲ記シテ氏ノ厚意ニ報ヒ聊カ斯業ノ上ニ盡ス所アラントスルモノナリ

予ハ再ビ反復ス余ハ論ヨリ證據二分許リノ斷片ノ成績ヲ得タルヨリてんぐさヲ細切スルモ敢テ多大ノ損害ヲ與フルモノニアラズシテ其斷片中ニ含マレタル胞子ハ其後幾分成熟シ附近ニ落下スルモノナルベシト信ズルモノナリ是レ遠藤氏ト意見ヲ異ニスル處ナリ唯胞子ノ熟否ヲ判明スル能ハザルニアラズヤトノ非難ハ遠藤氏ノ說ニ服ス若シ明ニ之ヲ判ズル法アラバ斯業ノ爲メ垂教ノ勞ヲ惜ムナカラントヲ而シテ實業上ニハ予ノ前掲報告文中ニ在ル如ク細切法ニヨルヨリモ相當大サノ體ヲ棕櫚繩ニ挿ミテ胞子ノ撒布ヲ圖ルヲ良策トスルモノナリ

附言 頃日遠藤氏ノ上京スルニ會シ談此事ニ及ブ氏曰ク氏ノ著書ニ論ジタル要旨ハてんぐさノ蕃殖ヲ圖ルニハ之ヲ細切スルノ要ナシト云フニアリト予モ前ニモ云ヘル如ク細切ヲ以テ良策トスルニハアラザレドモ細切スルトキハ胞子ヲ撒布スルニ效ナシトハ信ゼザルモノナリ此點ヲ以テ遠藤氏ト說ヲ異ニスルモノナリ因テ茲ニ記ス

○あらめ、かぢめノ和名ニ就テ

岡村 金太郎

Okamura, K.: — On the Japanese Names of *Ecklonia bicyclis* Kjellm. and *Ecklonia cava* Kjellm.

あらめ、かぢめノ和名ニ就テ予ハ從來東京並ニ房州邊一般ニ用キ來レル普通ノ稱呼ニ從ヒ常ニ食用トスル皺アルモノヲあらめトシ今日専ラ沃度製造ニ用キテ食用トセザル方ノ皺ナキモノ（中ニハ皺アルモノモアリト云フ詳ナラズ）ヲかぢめト稱シ來リタレドモ明治三十六年ニ至リ遠藤氏ノ日本有用海產植物世ニ出デ圖ラズモ余ノ從來用キ來レル稱呼ト正ニ反對ノ和名ヲ附シ彼是ヲ轉倒シタルヨリ世間其孰レニ從フテ可ナルカラ知ラズ頗ル疑惑スル所アル

ニ至レリ

あらめトかぢめトハ世間往々混同シ稱呼ヲ彼是轉換シ其何レヲ是ト確ト辨明シタルモノナキハ遠藤博士ノ海藻和漢名考あらめ、かぢめノ條(植物學雜誌第二十三卷第二百六十五號七十五頁、明治四十二年二月二十日)竝ニ同氏著海產植物學第四一〇頁―四二六頁(明治四十四年三月)ニ詳説セラレタル所ニテ盡キ古ノ學者ハ其二者ノ區別ヲ明ニスル能ハザリシナリトノ氏ノ説ニハ予モ賛成ナリ然レドモ予ヲ以テ見ルニあらめトかぢめトハ區別ナシトスルモ畢竟同一物ナレバ彼是區別ナキハ其處ニシテあらめハ海藻ノ名かぢめハ其海藻ヲ紛末ニシタル謂ハハ製品ノ名ナリシナリト予ハ信ズルモノナリかぢめヲ今日ノ如クあらめト類似セル一種ノ植物ノ名稱ト思ヒテ其正確ナル記載ヲ古本草學者ノ著書ニ索メントスル故ニ益々紛亂ヲ來スノミニシテ得ル所ナキニ歸スルニハアルザルカ倭名抄ニ滑海藻ヲ阿良米ト訓ジ俗用荒布ト註シ又同書ニ末滑海藻アリテ之ヲかぢめト訓ジ俗用搗布搗者搗末之義也ト註シ賦役令ニハ滑海藻ト竝ベテ末滑海藻アリ是等ヲ以テ見レバ愚考ニテハ滑海藻(アラメ)ヲ搗チテ粉末ニシタルモノ末滑海藻即チかぢめナリトアルニテ足レルニハアラズヤト思フナリ其他後世ノ學者主トシテ本草者ガあらめトかぢめトヲ別物視シテ同一種ノ多々異形アルモノヲ或ハかぢめトシ或ハあらめトシテ記載シタル書ドモヲ引用スレバ益々紛雜ヲ來スノミニシテ毫モ得ル所アラザルナリト思惟ス

日本大辭林ニかぢめ「搗布、こんぶ、の、かちてこにしたるもの」トアリ言海ニ「荒布ノ類、細ク狭クシテ皺多シ、乾シテ搗チテ末トシ吸物ニ加フレバ甚ダ滑ナリ」トシタルモノモ其源ハ和名鈔ノ説ト一般ナリ但ダ日本大辭林ノ搗布ヲこんぶノ搗チテ粉末ニシタルモノトセルハ遠藤氏ノ説ノ如ク一説トヨリ見ルベカラズ昆布ノ末ニシタルモノヲ「布ノ粉」ト云フハ奥州地方ニテノ稱ナレバ多分何カ著者ノ誤ヨリこんぶヲ末ニシタルモノト思ヒタルナラン今日ニテモ岩手縣界ヨリ湊、下北半島、鰺ヶ澤、深浦邊等一般ニ青森縣下ニテハあらめトモかぢめトモ云ヘル稱呼ナキヲ以テ見レバ此等ノ和名ハ少ナクモ宮城若クハ茨城邊ヨリ南方ノ稱ナランカト思ハル又わかめニハ古クにぎめ(和布)ノ名アリテあらめ、かぢめノ名アル地方ニ蕃殖スルモノナレバ之ヲ末ニシテかぢめトハ稱セザリシナルベシ

○あらめ、かちめノ和名ニ就テ 岡村

更ニ別ノ方面ヨリ考察スルニ奈良朝其他ノ古歌ニあらめヲ詠ジタルモノ多ク「伊勢のあまのかつぐあらめの」云々ナドハ屢々見ル所ナリト雖モかちめヲ詠ジタルモノハ予ノ淺見ノ故カ一モ之アルヲ知ラズ是レ思フニあらめハ天然ニ産スル海藻ナルヲ以テ人ノ日常目ニモ見口ニモ之ヲ味フテ普通ノモノナリシ故ニ歌ニモ詠ジタルナルベクかちめハ其搗チテ末ニシタルモノユヘ自然歌ナドニ詠ズル機ノ少ナキニヨレルニハアラザルカ又海士ノ潜^{カッ}ゲルあらめハ必ズシモ正眞ノあらめ許リニテモアラザルベク彼ノ沃度ノ材料トスル今日所謂かちめモアリシナラン夫等ヲ歌ニあらめト詠ミシハ即チ一ハ食用トセザルモノユヘ其頃植物トシテ名ナク他ハあらめトシテ和名アリシニ依ルナランカ夫トモ海士ハ唯正眞ノあらめノミヲ採リシヤモ知ルベカラザルナリ

あらめヲ古ヘヨリ食用トシ又四時ノ祭事ナドニ用キタル證ハ延喜式ニ詳ナレバ一々之ヲ舉ルノ煩ヲ避ケテ略シヌ而シテ延喜式ニハ滑海藻ノ字ヲ用キタレドモ假名文字ニテあらめト記シタルモノハ土佐日記ニ元日ノ下ニ「いもしあらめも齒^{ハシ}固もなしかやうの物もなき國なり求めしもおかす」トアリ又平家物語第三ノ卷ニ「かた手にはあらめをもち云々玄はひの時はかいをひろひあらめを取云々」トアルハ即チ普通食用トスルあらめ（即チ遠藤氏ノ謂ユルかちめ）ノコトヲ云ヘルモノト判ズルヲ至當トスルニハアラザルカ之ヲ今日ニテモ食用トセザルかちめ（即チ遠藤氏ノ謂ユルあらめニシテ同氏海產植物學第百三十圖）ナリトスルハ穩當ナラザルガ如ク思ハル此等古キ文書ニあらめハアレドモかちめハナシ唯義經記ニ「いはとのさきといふ所につきてあまの苦やに宿をかりて夜と、もに御ものがたり有けるに浦の者どもかちめといふものをかづきけるを見給ひ云々」トアルモ予ノ思フ所ニテハあらめナルベシ義經記ハ著者年代トモ詳ナラザレドモ學者ノ說ニテハ足利末ノモノトノコトナリ然レバ其著者があらめトかちめトヲ同一物視シタル國ノ人ニテモアリテ斯クハ記シタルモノナルベシ

余ハ前文ニかちめ即チ延喜式ノ末滑海藻ハあらめ即チ延喜式ノ滑海藻ヲ末ニシタルモノナルベシトノ說ヲ舉ゲタリ賦役令ニ若輪^ル雜物^ハ者^ハ末滑海藻一石トアリ此石ハ今日米穀等ノ秤量ニ用キル石ト同ジキカ否カラ詳ニセザレドモ多分同一ナルベク粉末ニシタルモノヲ斗ル名目ナルベシ其證ニハ布乃利ニ就テ延喜式卷第三十三ニ大膳下嘉祥寺春

ノ地藏悔過料布乃利九升六合トアリ尙ホ同書卷二十三ニ伊勢國鹿角菜^{ツノノリ}二石尾張國鹿角菜三石等アリふのりヲ九升六合又ハ何石ト斗レルハ即チ樹ニテ量リタルモノナルコト明ナリ尤モ延喜式卷第三十竝ニ第三十三斤ヲ以テ記シタル所モアレバふのりハ樹ニテモ亦^{ハカリ}秤ニテモ取リタリト見ヘタリこんぶ、にぎめ(即チわかめ)みる、あらめ等ハ延喜式ニ皆斤ヲ以テ記シ石又ハ升ト記シタルモノナシ

以上予ノ見ル所ニテハあらめモかぢめモ植物トシテハ同一物ニシテ一ハ原藻一ハ粉末ニシタルモノナリトノ説ヲ確ムルニ足ルト思ヘド然シ水掛論ナリト云ヘバ水掛論ナルガ故ニ予モ強イテ之ヲ固執セズ古ノ書ニかぢめナル海藻ノ形態ヲ明ニ記載シタルモノナク又如何ナル形態ノ海藻ヲ搗チテ末ニシタルモノヲかぢめト云フトノ記事明ナラズ本草學者ノ説皆あらめ、かぢめノ區別ヲ明ニセザル上ハ何レノ和名ヲ二者何レノ海藻ニ附スルモ學者ノ自由ニシテあらめヲかぢめト稱スルモ妨ナシ然レドモ既ニ先輩ニシテ其何レカヲ明ニシタルモノアル上ハ後學ノモノハ之ニ準據セザルベカラザルナリ」是ニ於テカ余輩ハ明治ノ著ニ求メザルベカラズ」ト遠藤氏ガ海產植物學第四一四頁ニ記シテ氏ハ有用植物圖說ト日本水產製品誌トヲ掲ゲタリ

有用植物圖說(田中芳男小野職懋明治二十四年)ニハあらめ竝ニかぢめノ記載アリテあらめノ圖ニハ *Capea elongata* (即チ *Eisenia arborea* ARESCH. f. *bicyclis* (KJELLM.) YENDO) ノ學名アリかぢめハ記載ノミニシテ圖ナシかぢめノ記載ハ

黒菜^{アラメ}ノ種類ニシテ形亦似テ葉片ノ幅狹ク薄ク縱皺アレドモ密ナラズ波紋ヲナス味ハ黒菜ニ似テ劣ル其莖圓條ヲナシ長サ二尺餘アリ以テ杖、把柄其他ノ品物ヲ作ルベシ

トアリテ形狀ハ詳ナラザレドモ一方ノあらめハ圖モ學名モアリテ普通食用トスルあらめニ紛ギレ様ナシ

此他日本製品圖說(高銳一明治十年)ニハあらめノ圖アリテかぢめハ圖モ記載モナシあらめハ予ノ云フあらめナリ

水產圖解(藤川三溪明治二十二年)ニハあらめノ圖アリテかぢめナシあらめハ予ノ云フあらめニ同ジ

拙著日本藻類名彙(明治三十五年)ニハあらめトかぢめトノ學名ハ遠藤氏ノモノト相反セリ

○あらめ、かぢめノ和名ニ就テ 岡村

右ノ外明治ノ著ニモ予ノ見タル所ニテハ遠藤氏ノ云ヘル如ク名稱ヲ轉換シタルモノナシ尤モ明治ノ著書トテ著者ノ如何ニモヨルユヘ一概ニハ引用セズ多少參考トスベキモノヲ撰ミ他ハ省キタリ

茲ニ西曆千八百七十四年(明治七年)ノ著 Suringar's Illustrations des Algues du Japon (Suite) p. 1—12, Pl. XV—XVIニあらめトかぢめトノ圖ヲ掲ケあらめノ學名ヲ *Ecklonia radiata* (TURNER) J. Ag. var. *rugulosa* トシテあらめ

ノ和名ヲ記シかぢめノ學名ヲ *E. radiata* var. *laevis* トシテかぢめノ和名ヲ示シタリ其あらめトシテ圖シタルモノハ予ノ云フあらめニシテかぢめトシタルモノモ予ノ云フかぢめナリ此書モ遠藤氏ノ知ル處ナリ

予ハ明治二十三年六月二十八日植物學會ニ於テ本邦產かぢめ屬ノ種類及蕃殖ヲ講演シタルモノ同年七月ノ植物學雜誌第四卷第四十一號並ニ第四十二號ニ載セタリ其序文ニ

本邦所產のかぢめ屬の種類は其數三種あれども和名の存するは唯二つのみ即ちあらめ及かぢめ之なり而して此二種のもは其形狀實に相似たるを以て甲所にあらめと稱するもの乙地に之をかぢめと唱ふること所々皆然り或は全く別種なる類を以てかぢめ若くはあらめと稱するが如き必竟一定したる記載なきに因るなり今左に此屬の種類蕃殖の方法及び播布の大略を論せんとす

ト前書シテあらめニ *Ecklonia bicyclis* KUTLIN. ノ學名ヲ附シ説クニ第九圖版ヲ以テシかぢめニ *Ecklonia caua* KUTLIN. ノ學名ヲ附シ第十圖版一、二圖ヲ以テシひろはかぢめニ *Ecklonia latifolia* KUTLIN. ノ學名ヲ附シ同圖版第三及四圖ヲ以テセリ此ノ予ノかぢめトシタルモノハ予自身あらめト混ジタルヤノ疑アリ故ニ其記載ハ今日所謂かぢめ(遠藤氏ノあらめ)トシテ沃度ノ材料トスルモノトハ同ジカラザルヤノ嫌アレドモ其之ニ充タル學名 *Ecklonia caua* KUTLIN. ハ遠藤氏ノあらめ(海產植物學第百三十圖)ト一致ス故ニ縦ヒ予ノかぢめノ記載及圖ハ誤リニセヨ一方ノあらめ(予ノ云フあらめニシテ遠藤氏ノかぢめ)ハ誰人モ之ヲ誤ルナキ様圖説シ加フルニ學名ヲ以テシタレバ後人若シ先人ノ爲ス所ヲ參考シ之ニ準據スルモノトスレバあらめ即チ *Ecklonia bicyclis* = *Eisenia arborea* ARSEH. f. *bicyclis* YENDO ヲ更ニかぢめトシテ發表スル理由ナキナリ況ンヤ前ニ掲ゲタル明治ノ書並ニ古ノ文書等ニモあらめトシテ食用ニ供

シタルモノ明ナルニ於テオヤ且ツあらめノ圖ハ予ノ植物學雜誌ニ掲タルモノ竝ニ SURINGAR 氏ノモノトモ明ニ予ノ云フあらめニシテ遠藤氏ノ所謂あらめト混ズベキ様ナシ

若シ今日學會ニ所謂 Law of Priority (先發表權)ナル者アリテ先人ノ誤ヲ正スノ外後人ハ先人ノ爲ス所ニ準據スベキ者ナル上ハ遠藤氏ニシテ特ニ和名ヲ轉換セザルベカラザル理由アレバ兎ニ角然ラザレバ古來ノ稱呼ニ從ヒテ差支ナカルベク敢テ之ヲ轉倒變換シ後人ヲシテ其從フ所ニ惑ハシムルガ如キヲヲナスノ要ナカルベシト思惟ス敢テ卑見ヲ陳ジテ遠藤氏ノ別ニ異論ナキニ於テハ和名ヲ改メラレンコトヲ請ヒ併セテ世間ニ說ノ何レカ是ナルヲ質スト云爾

附言 人或ハ言ハン和名ノ如キハ何レニテモ可ナルベシト然レドモあらめ、かぢめノ如キハ一ハ食用ニシテ一ハ沃度材料ナリ故ニ官術等ニテ調査ノ際世間此名稱ヲ混ズルトキハ往々ニシテ統計ナドノ上ニ大差ヲ生ズルコトアリ故ニ一定スルノ要アリ尤モ學術トシテハ要ノ有無ハ論ゼス正スベキハ正スベキコト勿論ナリト雖モ其實用アルモノハ尙更ノコトナリ故ニ斯クハ論ジヌ

○邦産ひし屬ノ變化ニ就テ (豫報)

中 野 治 房

Nakano, H.: — On the Variation of Japanese *Trepa*.

エングラ最新ノ分類ニ從ヘバひし屬ハ柳葉菜科ニ屬スル一屬ニシテキュー植物目錄ニヨレバ全世界中七種ヲ産ス。今モシ之ニヨリテ邦産ノひしヲ計上スレバ三種トナラン。吾國ノひしヲ圖說セル眞ヲ置クニ足ル最初ノ書ハ蓋シ岩崎灌園ノ本草圖譜ナラン。該書中ニハひし、おにひし、ひめびし、唐びし、かつたいびしノ圖說アリ。書中ひしノ葉ヲ紅色ニ色彩セルハ余ガ後ニ注意スベキ重要ナル證明タルナリ。之レニ學名ヲ加ヘシハ云フ迄モ無ク飯沼翁ニシテひ